

平成27年6月2日  
千葉大学医学部附属病院

## 県民・市民公開フォーラム「がんはどこまで遺伝するの？」を開催

医師・認定遺伝カウンセラーが、「がん」と「遺伝」の関係をわかりやすく解説します

第39回日本遺伝カウンセリング学会学術集会（大会長：千葉大学医学部附属病院 野村文夫）主催のもと、県民・市民公開フォーラム「がんはどこまで遺伝するの？」を開催します。

世界的な女優が遺伝的ながんを予防するため、左右の乳房を切り取ったというニュースがあるように、「遺伝」と「がん」の関係については世界的にも関心が高まっています。千葉大学病院の遺伝カウンセリング症例数においても、2013年度で181例あり、2011年度比で約30%増加しています。

このたびのフォーラムでは、最前線で活躍する医師と認定遺伝カウンセラーにより、大腸がんとう乳がんを取り上げ、一般の方にもわかりやすいよう解説します。

ぜひ、ご取材いただきますようよろしくお願いいたします。

### 【開催概要】

日 時 平成27年6月28日（日）14時30分～17時30分

場 所 三井ガーデンホテル千葉（千葉市中央区中央1-11-1）

内 容

シンポジスト① 山本 尚人（千葉県がんセンター 乳腺外科）

「乳癌の早期診断と治療の最前線」

シンポジスト② 四元 淳子（お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系）

「遺伝性の乳癌とどう向き合うか」

シンポジスト③ 宮内 英聡（千葉大学 先端応用外科）

「大腸癌治療の最前線」

シンポジスト④ 赤木 究（埼玉県立がんセンター 腫瘍診断・予防科）

「遺伝する大腸がんの見分け方と予防」

司 会：野村 文夫（千葉大学医学部附属病院）

横井 左奈（千葉県がんセンター）

\* 詳細は別添の案内をご参照願います。

取材に関するお問い合わせ先  
千葉大学医学部附属病院  
総務課広報係 下條・渡辺・丸山  
Tel：043-226-2225 Fax：043-224-3830  
E-mail：xae6025@office.chiba-u.jp

6月28日（日） 県民・市民公開フォーラム  
 「がんはどこまで遺伝するの？」取材申込書

お手数ではございますが、当日の準備のため、下記に必要事項をご記入の上、  
 6月25日（木）15時までにFAXにてご返信願います。

FAX送信先 043-224-3830  
 千葉大学医学部附属病院総務課広報係 宛

貴社名 (媒体名)	( )		
代表者	お名前		
	TEL		FAX
取材者人数	計 名	ペン 名 / スチール	名 / ムービー 名

**入場無料** 事前申し込み不要  
先着300名になります。

主催：第39回日本遺伝カウンセリング学会学術集会  
後援：千葉県、千葉市、公益財団法人ちば県民保健予防財団

# 県民・市民公開フォーラム

## 「がんはどこまで遺伝するの？」

開催日：平成27年6月28日(日曜日)

14時30分～17時30分 ※開場14時

場 所：三井ガーデンホテル千葉

大腸癌と乳癌をとりあげて、一般向けにそれぞれについて診断と治療の現況と遺伝的な話をセットでお話しいたします。是非御来聴ください。



**開会の挨拶** 齋藤 加代子 (日本遺伝カウンセリング学会理事長)

**司 会** 野村 文夫 (千葉大学医学部附属病院)  
横井 左奈 (千葉県がんセンター)

**シンポジスト** ① 山本 尚人 (千葉県がんセンター 乳腺外科)  
「乳癌の早期診断と治療の最前線」

② 四元 淳子 (お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系)  
「遺伝性の乳癌とどう向き合うか」

③ 宮内 英聡 (千葉大学 先端応用外科)  
「大腸癌治療の最前線」

④ 赤木 究 (埼玉県立がんセンター 腫瘍診断・予防科)  
「遺伝する大腸がんの見分け方と予防」

**閉会の挨拶** 矢島 鉄也 (千葉県病院局長)

### 【問い合わせ先】

第39回日本遺伝カウンセリング学会学術集会 事務局 (千葉大学大学院医学研究院 分子病態解析学)  
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻 1-8-1

電話：043-226-2167 F A X：043-226-2169 E-mail：jsgc39@ho-chiba-u.jp

# 県民・市民公開フォーラム「がんはどこまで遺伝するの？」

司会 野村 文夫 (千葉大学医学部附属病院)  
横井 左奈 (千葉県がんセンター)

## 【開催趣旨】

米国の有名女優の遺伝性乳がん・卵巣がんに関する一連の報道を受けて、我が国でも「がんの遺伝」に対する関心が高まっています。遺伝するがんはがん全体の5～10%程度で、残りの大多数のがんは主として環境要因(加齢、飲酒や喫煙などの生活習慣、食生活など)により発症します。遺伝子診断技術の進歩の結果、遺伝するがんとそれ以外のがんを見分けることが可能になり、1)すでにがんにかかっている方の今後の診療に直接役立てること、2)血縁の方(お子さんや兄弟・姉妹など)のがんの予防や早期診断に活用することも可能な時代になっています。そのためには適切な遺伝カウンセリングを受けることがとても大切です。本フォーラムでは乳がん和大腸がんの診療の最前線と遺伝について専門家にわかりやすくお話しいたします。

## 「乳癌の早期診断と治療の最前線」 山本 尚人 (千葉県がんセンター 乳腺外科)



ピンクリボン運動に代表される乳癌の啓発活動により我が国でも乳癌検診受診率は上昇していますが、欧米と比べるとまだまだ低いです。乳癌検診による早期癌の発見によって乳房温存療法などの治療選択肢が増え、さらに手術に代わって先進医療によるラジオ波熱焼灼療法も限定された施設で行われています。また最近では、2年前のアンジェリーナ・ジョリーの報道をきっかけに遺伝性乳癌に対する認識も広がりつつあります。乳癌の薬物療法では、癌の性質(サブタイプ)によって薬剤が主に選択されますが、トリプルネガティブ乳癌に比較的多いとされている遺伝性乳癌に対する薬剤は今のところ化学療法のみしかなく、現在分子標的治療薬が治験開発中です。

今回の講演では、乳癌の早期診断の重要性と早期乳癌に対するラジオ波熱焼灼療法およびサブタイプに対応する薬剤を開発中のものも含めて紹介します。

## 「遺伝性の乳癌とどう向き合うか」 四元 淳子 (お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系)



現在、日本では一年間に8万人以上の女性が新たに乳がんと診断されています。そのうちの一部の方が遺伝性の可能性があると考えられます。身近に乳がんの方がいると、ひょっとして自分も遺伝性の乳がんかもしれないと不安に思っている方がいらっしゃるかもしれません。今日は、遺伝性の乳がんにはどのような特徴があるのか、どのような方が当てはまるのかについてもご紹介しながら、具体的にどんな対策があるかについてお話ししたいと思います。

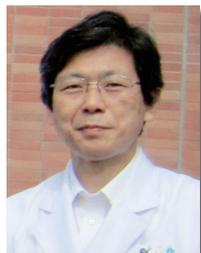
遺伝性の乳がんは、適切な対応ができれば決してこわい病気ではなく、いろいろな治療法や選択肢のある病気でもありますが、時にはちょっとした注意も必要です。早めに気づき、ご自分や家族の健康を守るためにも、まずは遺伝性乳がんの実態を知り、乳がんの専門家や遺伝の専門家をうまく利用しながら、皆で取り組んで行きましょう。

## 「大腸癌治療の最前線」 宮内 英聡 (千葉大学 先端応用外科)



大腸癌はいろいろな癌の中で胃癌に次いで2番目にかかりやすく、癌の死因としては3番目に多い、とても身近な癌と言えます。大腸癌は早い時期に見つければ容易に根治することのできる癌であり、検診が非常に重要といえますが、もし「早期」を越えた状態でみつかったとしても、手術を中心とした様々な治療法を駆使することにより、治療成績は進歩しつつあります。大腸癌の中には高率に家系内に発生し遺伝が強く関わっているものがあることは以前よりわかっていましたが、近年こうした大腸癌に関する研究が進み、「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」も作成されました。「遺伝性大腸癌」には通常の大腸癌と異なる性質が少なからずあり、同じ大腸癌であっても治療やフォローにおいて特別な配慮が必要となります。今回は大腸癌全般の診断、治療に関する最前線についてご紹介するとともに、その中の特殊なタイプとして存在する「遺伝性大腸癌」というものを知っていただけるようお話ししたいと思います。

## 「遺伝する大腸がんの見分け方と予防」 赤木 究 (埼玉県立がんセンター 腫瘍診断・予防科)



「がんは遺伝子の病気である」という言葉を聞いたことがある方も多いのではないかと思います。これは「がんは遺伝する病気である」という意味ではなく、私たちの体を構成している細胞の中にある遺伝情報が、生活する中で様々な変化を受け、それによって細胞の性質が変わり、やがてがんへと進化することを意味したものです。「がんがどのようにしてできるのか?」を知ることは、遺伝性のがんやそうでないがんを理解する上でとても大切です。

大腸がんは、胃がんに次いで多く、その数%が遺伝性であるため、その絶対的な数は侮れません。大腸がんの場合、個人(若年発症、多発がん、随伴病変など)や家族(がんの種類、発症年齢、多発がんなど)の情報に加えて、簡単な分子検査を行うことにより、最も多い遺伝性大腸がんを予測することができます。「効率よく拾い上げ、効率よく検診を行う」ことで、遺伝する大腸がんから命を守ります。